

社会
福祉課

「庄原市の火」をパラリンピック聖火へつなぐ

東京2020パラリンピック聖火リレー庄原市採火式

国営備北丘陵公園で、8月12日、東京2020パラリンピック聖火リレー庄原市採火式を開催しました。

パラリンピックの聖火は、全国各地で独自の方法で採火され、各道府県で集約された後、東京都で開催される「全国集火式」で一つに統合されます。

庄原市では、伝統的な刀作りで行われる「火起こしの儀」から採火。日本刀研究者である久保善博刀匠（市民栄誉賞受賞者）が鉄を打ち、その際に発生する熱を利用して、種火を起しました。

これは、日本神話のルートである比婆山を中心に、古くから「たたら製鉄」による鉄づくりが盛んに行われた、本市特有の歴史的背景を生かしたものです。

その後、トーチキスリレーで、市障害者連合会大江武芳会長、令和2年度成人代表作田龍哉さん、木山耕三市長の順に火をつなぎ、「庄原市の火」として採火台へ火を灯しました。

今回採火した火は、共生社会の実現を願う思いとともに、広島県を経由し、聖火リレーの火として東京へつながりました。



「火起こしの儀」でトーチに火を灯した



トーチキスリレーの様子



左から大江会長、木山市長、久保刀匠、作田さん

生涯
学習課

”祝”成人おめでとう

令和2年度庄原市成人式（オンラインでの配信）



新成人として決意を述べる作田さん

昨年度、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を延期した令和2年度庄原市成人式をオンラインで実施し、映像を配信しました。

映像では、最初に木山市長があいさつの中で「ふるさと庄原への思いを持ち続け、将来を担う意欲溢れる新成人の皆さんに活躍してほしい」と新成人を祝福しました。

また、新成人代表の作田龍哉さんが「周囲の人や社会に恩返しをし、大好きな庄原市のために微力ながら力を尽くしていきたい」と決意を述べました。

最後には、サンフレッチェ広島の新成人代表の作田龍哉さんが「周りに感謝し、自分の信じる道を歩んでほしい」と新成人を激励しました。

総務課

被爆者の思いを語り継ぐ

平和啓発セミナー開催



平和への思いを話す金近さん

市は、原爆や戦争の記憶を風化させず、平和の尊厳や戦争の悲惨さを後世に伝えていくことを目的に、毎年、平和啓発セミナーを開催しています。

本年は、8月5日に市役所本庁舎1階市民ホールで、被爆体験伝承者の金近敦子さんを講師に迎え、「被爆体験証言の伝承講話」と題して講演を行いました。

金近さんは、旧制中学4年生（15歳）の時に被爆した國分良徳さんの証言を基に、原爆の犠牲となった家族について話しました。

また、写真や絵を使って、原爆投下直後の街や人々の様子、戦時中の暮らしについて解説しました。

参加者からは「被爆体験を聞く機会が少なくなっている中で、生きた証言を受け継いでいくことの大切さを学んだ」「あの時代に自分なら何ができたろう、これから自分ができるだろう、ということ忘れずに問い続けたい」との感想がありました。

市は今後も、戦争の悲惨さや平和への思いを次世代へ継承していくため、平和啓発を推進していきます。